

第3回平成28年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会会議録

平成27年7月13日（月）10時～

委員長

皆様、こんにちは。本日は、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

会議の開会に先立ちまして、傍聴の皆様にお願いがございます。お手元の傍聴要領をごらんください。「藤沢市教科用図書採択審議委員会の傍聴要領」に従い、傍聴くださることをお願いいたします。

なお、この会議は公開でございます。審議の内容につきましては、会議録作成の都合上、録音させていただきます。

それでは、藤沢市教科用図書採択審議委員会規則第5条第2項の規定にあります委員の半数以上の出席要件を満たしておりますので、ただいまより第3回平成28年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を開催いたします。

今回ご審議いただく内容は、議題1「平成28年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」、議題2「平成28年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」の2点でございます。

それでは、本日の資料について事務局より説明をさせます。事務局、お願いいたします。

事務局

それでは、本日の資料についてご説明いたします。

まず、「平成28年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書まとめ」です。これは、平成28年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書をもとに事務局でまとめたものです。

次に、サイドテーブルをごらんください。そちらには、平成28年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査

書と特別支援教育関係教科用図書見本が展示してあります。

この平成28年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書は、特別支援学級設置学校長及び特別支援学校長が自校の教師に調査研究させたものを簿冊としたものです。

加えて、平成28年度、藤沢市で使用が予定されている中学校用教科用図書調査書と、市民及び保護者向けご御意見をいただいた意見書とあわせて、中学校用教科書見本も展示してあります。

以上で資料の説明を終わります。

委員長 ありがとうございます。ただいま資料について説明がございました。なお、平成28年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書につきましてですが、個人情報等の問題がございますので、非公開としたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 ありがとうございます。
それでは、それ以外に資料等について何かご質問はございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 では、ないようですので、議事に入ります。
本日の次第をごらんください。まず初めに、藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づきまして、会議録署名委員を指名いたします。
私とほかに、今回も本橋委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

本橋委員 結構です。

委員長 では、よろしく申し上げます。

それでは、議題1「平成28年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」審議してまいります。

事務局より資料について説明をさせます。事務局、よろしく申し上げます。

事務局 資料を説明させていただく前に、第1回審議委員会から本日までの調査研究の流れについて、まずご説明いたします。

今回ご審議いただく教科用図書は、学校教育法附則第9条に規定された教科用図書です。特別支援教育に関する教科書については、児童生徒の実態に合った一般図書を充ててもよいとされているものでございます。現在、全国の義務教育諸学校で教科書として使用しております一般図書のうち、比較的採択数の多いもので、かつ発行者が平成28年度においても引き続き当該図書の発行供給を予定しているものを文部科学省初等中等教育局教科書課がまとめました「平成28年度用一般図書一覧」というものがございます。これにつきましては、第1回審議委員会の際に皆様にはお配りさせていただきました。

この一覧に載っている図書を展示いたしました教科用図書研究会が5月11日から15日まで県立総合教育センター善行庁舎で開催されました。この研究会におきまして、白浜養護学校と特別支援学級の先生方が実際に展示されている図書を見ながら、在籍する児童生徒の実態や次年度入学する児童生徒を想定いたしまして調査研究を行い、その結果、平成28年度使用に適すると思われる一般図書についての報告として教科用図書調査書が提出されております。

それでは、資料を御説明させていただきます。「平成28年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書まとめ」をごらんください。

1 ページをお開きいただき、一覧表の一番上のところをごらんください。この一覧表は、附則第9条による図書を4つに分けて表記してあります。

まず1つ目は、「新」の文字を記載したものでございます。これは今回調査研究をした結果、新たに教科書としてふさわしいとして出された新規図書でございます。2つ目は、□の記号を記載したものでございます。これは昨年度採択された図書で、本年度の調査研究の結果、複数の種目において教科書としてふさわしいとされた図書でございます。3つ目は、●の記号を記載したものでございます。これは昨年度採択されましたが、今年度、発行者による供給が困難となった図書でございます。最後4つ目は、無印のものでございます。これは昨年度までに採択され、本年度も教科書としてふさわしいと調査された図書でございます。

なお、16ページから18ページには、新規図書と複数種目で希望のあった図書等を一覧表にして資料1としてお示しさせていただきましたので、こちらも御参考になさってください。

続きまして、14ページをごらんください。一覧表の最後、No.9、英語の欄の下のところでございますが、今お話をいたしました一般図書のほかに、平成28年度使用小学校用教科用図書、平成28年度使用中学校用教科用図書、特別支援学校小・中学部用文部科学省著作教科用図書がございます。なお、特別支援学校小・中学部用文部科学省著作教科用図書につきましては、資料2として19ページから20ページにお示しいたしました。これは第1回の審議委員会で資料として「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録（平成28年度使用）」をお

渡しいたしましたが、この中で知的障がい者用として挙げられている図書でございます。この本はいわゆる☆印本と呼ばれているものでございます。

それから、一般図書を採択希望する場合の留意事項につきまして、21ページに資料3として記載させていただきました。

以上で資料の説明を終わります。

委員長 　　ただいま資料について説明がございました。資料等につきまして、何か御質問はございますでしょうか。

各委員 　　ありません。

委員長 　　それでは、ないようですので議事に入りたいと思います。

新規の図書については、本審議委員会が初めて審議する場になっておりますので、慎重な審議をお願いしたいと考えます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、これから審議してまいりたいと思いますが、審議の進行について何か御意見はございますでしょうか。若林委員。

若林委員 　　今回の各学校で調査した結果を見ますと、教科書としてふさわしいものとして、新規図書、それから複数の種目にわたる図書、そういうものが多数出ていると思います。白浜養護学校をはじめ特別支援学級ではさまざまな実態があり、一般図書を教科書として使うというニーズも大変高いと思います。私の学校も特別支援学級があるのですが、その調査の様子を見ましても、一人一人の実態を踏まえて精査しておりまして、やはり幅広く決めていく必要があるかと考えますので、そのようにお願いしたいと思います。

委員長 　　ほかにございますか。石曾根委員。

石曾根委員　私も同じように考えます。附則第9条によって教科書として使用できる一般図書については、それぞれの児童生徒の特徴や発達段階に応じて学校が精査した本と考えられます。私もできるだけ採択の幅を広く用意してあげることが大切だと感じております。

委員長　　岩本委員。

岩本委員　　私も同感です。1つの本に1つの種目ということではなく、別の種目で使用することも十分に考えられることですから、複数の種目で使用希望の出ている図書についても、できる限り学校が希望しているものを使えるような方向で審議をしていくのがよいのではないかと思います。

委員長　　ほかに御意見はございますでしょうか。

それでは、ただいまの御意見を受けまして、各学校から希望が出されているものについては、教科書として使用できる方向で考えていくことと、これからの審議の進行については、新規の図書と複数の種目で希望が上がっている図書について審議していくということによろしいでしょうか。

各委員　　結構です。

委員長　　では、そのようにさせていただきます。

「調査書まとめ」の印で言いますと「新」と書かれた新規図書、そして、□の印がついている複数種目で希望がある図書について御意見を伺いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

各委員　　結構です。

委員長 それでは、No. 1 の国語・書写から御意見を伺いたいと思います。
す。よろしく願いいたします。本橋委員。

本橋委員 私 は、調査書まとめのNo. 1、今お話がありました国語・書写
にある、くもん出版の「もじことば4 やさしいひらがな2集」
について述べさせていただきます。

本校にも特別支援学級がありまして、担任が個々の子どもの
学びの実態を捉え、きめ細かな指導に当たっています。子ども
たちが学習課題に向かい、こつこつと取り組む姿を思い浮かべ
ながら本書を見てみますと、平仮名を習得して、生きた言葉と
して身につけ、子どもたちが日常の生活で使えるようにするた
めに、段階を追って無理なく学習が進められるようにできてい
る、そういったよさを持っていると感じました。

初めは、仮名のあ行からわ行と、「ん」までの46文字を学び
ます。その後、濁音、半濁音、促音、拗音を学んでいきます。
清音、濁音などの練習では、1ページ目に、例えば「すうじの
じゅんに『あ』『い』『う』『え』『お』をかきましょう。」と課題
が示されて、書き始めの印やとめる印がしっかりとわかるよう
に示されております。書き順が正しく理解されるようになって
いるという面では、大変よくできていると思います。そして、
2ページ目では、「こえにだしてよみながら、『あ』『い』『う』
『え』『お』をかきましょう。」と課題が示され、読むこととあ
わせた学習ができるように構成されていると思います。授業で
使用する上では、初めは、仮名をなぞり、定着の状況を見て鉛
筆で書かせるなど、さまざまな活用が可能であると考えます。
「ことばのれんしゅう」のページでは、「えをみてことばをよみ
ましょう。ひらがなをなぞりましょう。」という課題を示して、
習得した平仮名をイラストと対照させて、例えば、「あり」です
とか「うし」というように、言葉として身につけられるように

なっています。イラストが児童の興味を引いて、楽しみながら学ぶことができることと思います。そのほかにも、しりとりやクロスワードのような遊びを通して、平仮名の定着と言葉をふやす学習が行えるページがあることも魅力です。言葉を身につけさせる上でイラストが大変効果的に配置されているなと感じました。この本の最後のほうに「おけいこボード」というものがございまして、これを使ってもう1度仮名を振り返ったり、筆順を確認したりといった幅広い活用が可能であることもよさかなと思っております。

委員長 「もじことば4 やさしいひらがな2集」について、ほかに御意見はございますでしょうか、よろしいですか。

では、国語・書写に関するほかの図書についてございますか。
吉田委員。

吉田委員 私は、あかね書房の「うたってあそぼう1 えかきうた（どうぶつ）」についてお話しします。

この本は、歌に合わせて線を書いていると最後に動物ができ上がるという楽しい絵描き歌の本です。キツネであるとか、猿であるとか、いろいろな動物、全部で27種類の歌があって、それに合わせて、直線、曲線、丸、三角など、いろいろな線の種類が入っているので、楽しみながら繰り返し絵を描くことで、絵もできるけれども、その中で、文字を書くための導入として勉強できるのだと思います。文字を書くための初歩段階の練習としてはいい本だなと思いました。

また、筆記用具も、お手本ではサインペンを使っている感じでしたが、サインペン以外にも、鉛筆を使ったり、筆ペンを使ったりといった、筆記用具を変えていくことでもまた活用の範囲が広がっていくのではないかなと思います。楽しみながら文字を書くための練習をするという点で優れている本ですので、

ぜひ採択していただければなと思っております。

委員長 「うたってあそぼう1 えかきうた（どうぶつ）」でほかに御意見はございますでしょうか、よろしいですか。

では、他の図書について何かありますでしょうか。金箱委員。

金箱委員 私は、ジュラ出版局の「プータンどこいくの？」と、同成社の「ゆっくり学ぶ子のための国語5」の2つについて述べさせていただきます。

まず、ジュラ出版局の「プータンどこいくの？」ですが、本におもちゃのタイヤがついており、手で回すと、両方1度に音を出しながらくるくる回ります。これは、主人公のプータンがおじいちゃんから贈ってもらった赤い自動車に乗ってペダルを踏むとタイヤがくるくる回り出すというストーリーそのものです。車に興味を持つ子どもは少なくなく、このような仕掛けがあればさらに興味を持って本を手にするのではないかなと思います。ストーリーもわかりやすく、パトカーとか消防車など、日ごろ目にするいろいろな車が出てくるので、楽しんで読め、それが本を読む習慣づけにつながるのではないかと思います。

同成社の「ゆっくり学ぶ子のための国語5」ですが、詩、物語、説明文など、さまざまなジャンルの教材文があり、日常の場面での出来事とか様子を、ふだんよく使う言葉や、心情とか感情をあらわす言葉で表現していて、内容が大変わかりやすいなと思いました。また、それらの言葉や表現を使って、例えば、作文や俳句などを創作したり、自分の気持ちを相手に伝えるという体験ができ、個に応じて国語の力を身につける助けになるなと感じました。両方とも大変よい本ですので、ぜひ採択をお願いしたいと思います。

委員長 ほかにいかがでしょうか。三島委員。

三島委員 私は、保護者の立場からの視点となりますが、「プータンドこいくの？」について、先ほどと少し重なるところもありますが、お話しさせていただきます。

この本は、消防車、救急車など子どもの大好きな車がたくさん登場し、本物そっくりのおもちゃのタイヤが2つついている仕掛けの絵本です。ストーリーは、豚の男の子、プータンがおじいちゃんにもらった赤い自動車に乗って冒険に出かけるお話です。いろいろな車が登場するのですが、そのたびに、自分で仕掛けのタイヤをくるくる回すことで、子どもたちが物語の中により入り込める本だと思いました。おもちゃのタイヤは、左右どちらにも回せるのですが、右に回すのと左に回すのとでは微妙に音が違っていたり、回すときに適度な抵抗感がありましたので、自分が操作しているという感覚が持てるのもいいなと思いました。そして、消防車、救急車、パトカー、トラック、ショベルカーなど、次々と出会う車に合わせて、タイヤをゆっくり回したり、早く回したり、ブレーキをかけてみたりと、指先の力をコントロールできるようになれば、より楽しめる本ではないかなと思いました。また、仕掛けのタイヤの芯の部分が本にしっかりと固定されているので、子どもが多少乱暴に回しても、繰り返し読んでも簡単に壊れる心配がないのもいいなと思いました。

委員長 今、金箱委員と三島委員からありましたが、ほかにありますか。天利委員、お願いします。

天利委員 私からは、2冊ほどお話しいたします。まず、くもん出版の「小学ドリル国語 3年生の文章の書き方」についてお話しし

たいと思います。

これは、先ほど金箱委員が話された「ゆっくり学ぶ子のための国語5」という同成社の本とねらいは同じかなと思っております。特別支援学校の学習指導要領では、国語について、伝え合う力を養ったり、高め合うとともに、それらを活用する能力を育成するという大きな目標があるのですが、文章を読んで、その中から自分に必要な情報を得て、自分の考えをまとめて、相手に返していくというコミュニケーションの流れの中で、文章を読み取るというのはとても難しいことです。本書には、あたかも自分が体験したように感じられるような教室の中での出来事や、買い物に行ったときの様子など、とても実感できるような文章が非常に多く入っているので、そういったイメージしやすい内容の文章をもとに、そこからいろんな情報を得たり、自分の考えをまとめていったりすることができるので、とてもいいなと思いました。

それからもう1つ、学研の「NEWあそびのおうさまBOOKぬって」という本についてですが、これは後の図工・美術で出てくる「あそびのおうさまBOOK どんどんぬるほん」と似たような作りになっていて、この本自体も、もともとは図工・美術のほうで過去に採択されている本です。基本的には、リンゴの絵があって、ちょっと色を塗ればリンゴの絵になるとか、尻尾を書いたら動物の絵になるといったものですけれども、何かを使って書く、クレヨンを使うとか、絵の具を使うとか、ペンを使う、一種の道具を使って何かを表現していくということからスタートし、図工・美術のように、それを描いていくうちに楽しく自分を表現できるようになるという使い方もあるし、今回出されているように、鉛筆やサインペンを使いながら、その鉛筆やサインペンに慣れて、まだ文字と絵と認識ができないお子さんもいらっしゃるので、そういうことが結構楽しいということを実感できて、発展させていけるという意味では、国語

や書写についても十分使えるものだと思います。

委員長 ほかにございますか。石曾根委員。

石曾根委員 私からは、くもん出版「くもんの小学ドリル 1年生の文しょうのかきかた」についてお話しいたします。

本書は、文や文章を書く力をつけることができるドリルとなっています。そして、反復練習もできるように工夫されていて、興味を持ちながら繰り返し学習をすることで身につくように考えられています。短い文から長い文章へと取り組めるように配慮されていて、ゆっくり、無理なく学習を続けていけるようになっています。また、「がくしゅうのきろくひょう」が設けられていて、自分自身で達成感、満足感を味わうことができ、視覚的にも理解しやすくなっています。文字の大きさやほどよい間隔で見やすくなっており、イラストも適宜配置されていて、興味・関心を持ちながら学習が進められると思います。

委員長 「くもんの小学ドリル 1年生の文しょうのかきかた」についてほかに何か御意見はございますか、それ以外でも何かありましたら、よろしいでしょうか。

では、No. 1の国語・書写に記載されている新規図書、それから複数種目の図書は以上になりますが、これについてはよろしいですか。

それでは、No. 2の算数・数学から御意見を伺いたいと思います。算数・数学は3冊申請が上がっております。よろしく願いいたします。泉委員。

泉委員 私は、福音館の「幼児絵本シリーズ やさいのおなか」についてお話しします。

この本は、トマトやキュウリ、ニンジン、カボチャといった

身の回りにある11種類もの野菜の断面が次々に出てきます。それも最初のページは白黒の断面で何の野菜か想像が付きにくいのですが、次のページは色がついたカラーの断面、最後のページは野菜全体の美しい絵と続く構成になっています。野菜の姿や色を楽しく想像しながらページをめくるうちに、段階を追って種明かしされるように工夫されています。身近な食べ物が題材となっていますので、興味を持って学習に取り組むことができると思います。例えば、着席課題としては、運筆の基礎として形の塗りつぶしに活用できますし、具体物である野菜の数を数えたり、図形に関心を持ったり、図形の違いを見分けたりする学習にも使えそうです。また、この本は図工・美術でも申請がされています。図画工作としましては、1つの物を多面的に見て形を捉えたり、色の使い方を考えたりすることができますので、絵や工作の表現の幅が広がりそうです。使い方によっていろいろな教科で活用できる魅力的な絵本だと感じました。

委員長 岩本委員。

岩本委員 私は、くもん出版の「くもんの小学ドリル算数5年」というものと、ポプラ社の「とけいくん」について述べさせていただきます。

まず初めに、くもん出版の「くもんの小学ドリル算数5年」についてですが、純粋に算数の問題集として見ますと、基本テストから標準テストへ進むような構成で、段階的に学習ができる点がいいと思いました。また、5年生の算数の内容が、小数とか分数の計算、また、図形の基本から面積、体積の計算まで、また、平均とか割合の問題など、実生活で使うことが多い内容ばかりなので、生徒が算数や数学を学習する意味を理解するということろでいいなと思いました。特別支援学校や特別

支援学級の中学生在がこれを教科書として使用するということを想定しますと、実生活で身につけておきたい内容を網羅していると思いますし、判の大きさも、書き込みが可能になっていて、大き過ぎない良いサイズだと思いました。また、巻末には、分数の計算を反復練習できるようなホワイトボードがついていることもよく考えられているなど感じました。ページ数につきましても、1年間を通してじっくりと学習できる分量の教科書であると思います。

引き続き、ポプラ社の「とけいくん」について述べさせていただきます。

時計を読むこともまた生活の中で必要不可欠な学習内容だと思います。この本は、実際に時計の針を動かす作業とともに、それについて判定をする音が鳴って、操作が正しいということを教えてくれるような教材的な要素を持った教科書になっています。ゲームを楽しみながら学習できる点で、興味・関心を引くことが期待できますし、1年間を通して反復練習をすることで時計をマスターすることができる教科書として、評価できると思いました。小学校から中学校まで学年を問わず活用できそうですし、ほかの教科や行事等の準備学習などの場面でも利用できるのではないかと感じました。

委員長 ほかにいかがでしょうか。木村委員。

木村委員 私も、先ほど話がありました「やさいのおなか」という本についてお話しさせていただきます。

先ほどのお話と重なるところもあるのですが、身近な野菜の断面図を白黒とカラーで表記されているのは非常に興味深いところで、特に白黒の絵のところは、幾何学模様といいますか、子どもたちがいろんな図形に対する興味を持つのに適しているのではないかなと感じております。また、カラーの絵について

言えば、今度は実物と比較をしてみるとか、そういった形で理科とかの教科に使えるのかなという感じもしますし、外観と中身はこれだけ違うということから、いろいろな興味を持つきっかけとなる本ではないかと感じました。

委員長 天利委員。

天利委員 私は、岩本委員がお話しされたポプラ社の「とけいくん」についてですけれども、音の出る絵本を教科書にしているケースはとても多くて、音楽とか英語ではたくさんあるのですが、算数で、それも時計では多分初めてののような気がします。

例えば、この部屋の時計は数字が書いてありますけれども、数字ではなく棒だけで示してある時計も多くて、時間を示すことを学ぶというのはとても難しいのですが、ただ、デジタルにしてしまうと、昨日、今日、明日のような時間の流れを学ぶことが難しいので、やっぱり文字盤のある時計を使うことになります。3時なら3時というふうに言ってもらえる、その聴覚の部分を有効に活用できるという意味でとてもいいなと思いますし、鏡文字になっている子は9時と3時の区別がつかないので、このように言葉で補ってもらえることは、教科書として素敵な本だなと思いました。

委員長 ほかに御意見はございますでしょうか。

算数・数学は以上になりますが、よろしいでしょうか。

では、No. 3の生活・地図・社会に入りたいと思います。御意見がありましたら、お願いいたします。中村委員。

中村委員 私は、2冊、お話をさせていただければと思います。1つは、ナツメ社の「子どもの生きる力を育てるせいかつの絵じてん」、もう1つは、ひさかたチャイルドから出している「ロングセラ

一絵本 でんしゃでいこうでんしゃでかえろう」です。

まず、ナツメ社の「子どもの生きる力を育てるせいかつの絵じてん」ですが、本当にタイトルのとおりで、この本が目指しているところは、特に衣食住とかが中心ですけれども、生活の知恵とか、わざの基本をいろいろなテーマを設定してわかりやすく解説し、理解をして、子どもの自立をサポートするというのが目的として構成されているのではないかと思います。一応この本は体裁が辞典ということですので、ページ数も200ページを超えていますし、それから、装丁も堅牢なつくりになっておりますので、それなりの重さはあると思います。ぱっと見た印象は高学年向けかなと思ったりもしたのですけれども、イラストとか絵が非常にふんだんに配置されている上に、わかりやすく表現されていて、特にお風呂の場面とか歯磨きの場面では一つ一つ丁寧に絵が紹介されていることから、絵を見ていけば理解が図れると思います。文字が苦手なお子さんもしらっしゃると思うので、そういう場合に、先ほど高学年向けというお話をしましたけれども、実際にはもう少し対象のお子さんを広げることが可能かと思えます。

とにかく特徴としては、生活にかかわる身近な話題をテーマごとに本当に多く設定して、多岐にわたっていますので、長期間にわたって使えるというところが良いと思いますけれども、防災のページもつくっていますので、喫緊の話題も取上げているなと感じました。そのほか、見開きでそのテーマが設定されているところで、見やすさの点でよいと思いましたし、また、「おうちのかたへ」というのが各ページに設定されていて、親子で読んで、親子でともに知恵やわざを体験につなげていこうという点を意識して構成されているのではないかと思います。幅広い活用が期待できる本ではないかなと私は感じました。

もう1つ、ひさかたチャイルドの「ロングセラー絵本 でんしゃでいこうでんしゃでかえろう」ですけれども、表紙をぱっ

と見たときに、江ノ電みたいな電車の絵が描かれているのですけれども、内容としては、鮮明なイラストで、電車の風景とかが紹介されていますので、交通機関とか公共機関を利用するときに、あるいは、校外学習での事前学習でちょっと使ってみようかなといったときに活用できるのではないかと思います。

私が見た特徴としては、まず、前からも後ろからも読めるというところがおもしろいなと思いました。前から行くと山から海へ行き、後ろから読むと海から山へ行くという設定になっていて、それから、本に穴があけてあるんです。これはトンネルという形で設定されているのですけれども、そのトンネルから次のページの風景が一部分見えるんですね。そうすると、次はどこに行くのかなみたいにイメージを膨らませることができるといったところで、創造力を伸ばすことも期待できるのではないかと思います。また、電車の走る音が表記されていて、いろいろと一つ一つ変えているところが、読み方を変えて楽しめたりする部分、それから、トンネルを介して画面が変わるわけですが、風景とか、季節も伴って変わることや、乗っている人物まで細かく描いてある部分、団子を食べている絵とか、それから、絵を描いている乗客がいるとか、乗客一人一人を見てもいろいろと違いが描いてあるので、必ずしも電車好きでなくても楽しめる、アプローチできる本なのかなと思っています。

ロングセラーと書いてありましたけれども、この本は2002年から何度も版を重ねているということもありますので、以前に国語でも教科書として採択されていることでもありますけれども、そういう面では、結構利用の重ねられてきた本なのかなと思いました。

委員長 ただいま2冊について御意見が出ましたが、この2冊についてはよろしいですか。

それでは、ほかに御意見があればお願いします。井上委員。

井上委員 私は、成美堂出版の「CDつき小学生の英語レッスン 絵で見て学ぼう英会話」についてお話ししたいと思います。

これは、小学部高学年の生活科と中学部1年生の英語科の新規図書として上がっているもので、生活科と英語科とではかなりの隔たりがあるように思われますけれども、この本を見てみると、両者がコミュニケーションという意味で非常に多くの共通点を持っているということを再認識させられました。

小学部生活科の目標に、日常生活の基本的な習慣を身につけること、それから集団生活への参加に必要な態度や技能を養うことというのがありますけれども、その内容として、挨拶、集団生活への参加、手伝いや仕事、日課に沿っての行動、買い物、家族や近所とのかかわりなどというのが挙げられておりますが、この本にはまさにそういうさまざまな場面でのコミュニケーションの様子がカラーのイラストと英語と日本語とで、ユーモアも交えながら自然な形でわかりやすく示されています。人や社会とのかかわりについて学べることが多くあると思いました。また、さまざまな場面での感情を表現するページもありまして、生活科の目標である自立的な生活をするための基礎的能力と態度の育成にもつながると思います。

また、英語の教科書として見ても、英語の表現がシンプルながらも大変自然で、いずれも実際のコミュニケーションの場で使用できるものばかりでした。むしろ普通の教科書に載っていないような自然な英語の表現がたくさん載ってありました。音声CDがついていますが、本にある番号順にネイティブスピーカーの発音が入っていて、その発音の直後にリピートして練習できるような短い間があいています。まねして練習するのに大変よいと思いました。また、巻末に日本語と英語のジェスチャーの違いとか、動物の鳴き声の違いが比較してあったり、また、英語と日本語の両方で索引がついていたりするのも大変使いやすく、興味を引かれると感じました。

委員長

「CDつき小学生の英語レッスン 絵で見て学ぼう英会話」について、生活としての活用と英語としての活用の両面での御意見だったかと思えます。これについてほかに御意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

生活・地図・社会は以上になりますが、続きまして、No. 4の生活・理科に入りたいと思えます。御意見がありましたら、よろしく願います。若林委員。

若林委員

それでは、私は、学研の「ふしぎ・びっくり!? こども図鑑9 ちきゅう」について意見を述べます。

この本は、文字どおり図鑑として、豊富な写真、図版を載せているわけですがけれども、これによって情報過多になり過ぎないように、わかりやすく、的確に配置構成をしていると思えます。また、イラストなども、子どもにわかりやすく、統一感がとれているところに好感が持てます。

内容の構成ですがけれども、大きな項目として、「ちきゅうと星」「ちきゅうの中」「大むかしの生きもの」「天気」、この4つに分けて構成をしているのがわかりやすくできているのかなと思えます。そして、見開きの2ページで小さな項目をまとめておりまして、左上のところに見出しとして、例えばですがけれども、「太陽はなぜ東からのぼって西に沈むの?」というような、子どもの目線と子どもの言葉で示しており、しっかりとポイントを押さえて説明しております。それから、全体ですが、子どもの読む部分の漢字には全て振り仮名が振られており、漢字の苦手な子どもにも抵抗感が少なくなるように配慮されていると思えます。

委員長

ほかにいかがでしょうか。三島委員。

三島委員　私も同じく、学研の「こども図鑑9　ちきゅう」についてお話ししたいと思います。

この本は、なぜ雨が降るのか、雷はどうやって起きるのか、空はどうして青いのかというような子どもがよく発するたくさんの方の日常生活の疑問ですとか、火山や海の底など、ふだん覗くことのできない世界を写真やイラストを使ってわかりやすく説明していました。ですので、子どもの疑問を解決しながら、さらにさまざまな知識を身につけられる本だと思いました。また、宇宙や雲の写真などもきれいなので、子どもたちは図鑑の中の写真を眺めているだけでも飽きずに、引き込まれていくような気がしました。親からしますと、図鑑というとちょっとまだ難しいのかなと思ってしまいがちなのですが、こういった本も手元にあると意外なところで興味が広がっていくのかなと思いました。そして、物語と違って、子どもたちの個々の興味に合わせてどこからでも使うことができるというのも図鑑の魅力の1つかなと思いますので、教科書として使用するのはいいなと思いました。

委員長　「ふしぎ・びっくり！？　こども図鑑9　ちきゅう」について、ほかに何か御意見はありますか。よろしいですか。

では、他の図書について何かありましたらお願いします。

渡邊委員。

渡邊委員　それでは、私からは、「幼児絵本シリーズ　くだもの」と、「知識の絵本　ひとのからだ」について少し述べさせていただきます。

まず、「幼児絵本シリーズ　くだもの」のほうですけれども、この図書は、身近なスイカ、桃、ブドウ、梨、リンゴ、ミカンなどの果物がみずみずしく、非常に鮮やかに、とてもおいしく描かれています。ページの構成は、1つの果物を見開き2ペー

ジであらわして、まず、左のページにその果物を大きく描いています。右のページには、皮をむき、カットされて、さあどうぞと出された様子が描かれています。その果物の季節ですとか、味や色、手ざわりなど、食生活について考えるだけでなく、果物のなり方ですとか、実の有無、それから身近な果物を通して自然の事物にまで広げて学ぶことができるようにつくられています。

また、もう1冊、「知識の絵本 ひとのからだ」ですけれども、この図書は、生命が途切れなく引き継がれていく、すなわち生命の連続性と、その中で、1人の人間が受胎し、誕生し、成長、成熟、老化、そして死という一生の流れが根底にあると思います。そして、人のありのままの活動として欠かせない、排せつ、生殖、呼吸と血液循環、それから、脳、神経、筋肉、骨格と関節など、丁寧にわかりやすく扱っています。また、生活観のあるイラストや人の骨格や脳の写真なども掲載され、人の体やその働きについて興味・関心を持って学ぶことができるように工夫されていると思います。

このいずれの教科書も厚手の表紙が装丁されていて、つくりも堅牢で、教科書として適していると思います。

委員長 ただいまの2冊について何かほかに御意見はございますでしょうか。三島委員。

三島委員 私も、生活・理科の「幼児絵本シリーズ くだもの」について感じたことがあるので、お話しさせていただきたいと思います。

同じような意見になりますけれども、この本は、ページをめくると、丸ごとの緑のスイカがまずあらわれまして、さらにめくると、今度はカットされた真っ赤なスイカがさあどうぞと差し出されるような本です。続いて、桃、ブドウ、梨、リンゴな

ど、日常子どもたちが食べる果物が、やはり先ほどと同じく、みずみずしくて、本当においしそうに写実的な絵がこの本の魅力の1つだと思います。

果物は好きな子どもが多いと思いますので、とても身近な存在ですが、日常生活の中では果物そのものを目にするよりも、皮がむかれて、小さくカットされてお皿に載った状態のほうが子どもたちは目にするのではないのでしょうか。この本を開いてみると、スイカのページ以外は、左側のページには果物そのものの絵、右側のページには皮がむかれて食べやすい大きさにカットされた食べる時の状態の絵が描かれています。見開きで見ることで、これは同じ果物なんだと結びつくので、ふだん自分が食べている果物の本来の姿を子どもたちに教えてあげられるよい教材だと思いました。また、先ほども申し上げましたが、果物は子どもたちにとって身近な存在なので、とても興味を引く本だと思いますし、この本に描かれているどの果物も、さあどうぞと、まるで自分に差し出されたかのように感じる絵なので、いただきますと読み始めて、甘い、酸っぱいなど話をしながら、最後はごちそうさまでしたと、子どもとコミュニケーションをとりながら読み終えたい本だと思いました。

委員長 ほかの図書についてありますでしょうか。本橋委員、お願いします。

本橋委員 私からは、グランママ社の「ぼくとわたしのせいかつえほん」について若干意見を述べさせていただきます。

この絵本は、子ども自身が日常使う、あるいは家族が使っている身近な生活用品ですとか、野菜や果物、花などの植物、そして、さまざまな動物などが優しいタッチの絵で紹介されて、子どもが夢中になって見る絵本だと思いました。過去に、生活・

地図・社会のほうで採択されていますけれども、このたびは生活・理科ということなので、特に理科的な視点でこの絵本を見てみますと、花の絵を見比べるだけでも、草花だけではなく、桜のように木に咲く花があることや、あるいは、葉や花の形、大きさや色の違いなどに着目して、それぞれの花の特徴を見つけ出すことができるようになっていきます。そんなすばらしい絵がたくさんおさめられています。特に校庭の花を観察するときなどには、絵本を手にして見比べるなどの活動をするすることで、子どもたちもそれぞれの花などに大変興味を持って活動できるものと思います。また、野菜についても、畑などで観察するときに、この絵本を手がかりに学習を進めることができると思います。例えば、絵の中にキュウリですとかピーマンがあるのですが、そういったものを、まだ実が小さいときに実物の横で絵を示してあげますと、子どもは絵のように成長するまでの変化を想像することができるでしょうし、自然の不思議さに対する興味・関心を持つことと思います。この絵本は、校庭の花壇ですとか、畑の植物、野菜探しの活動をはじめ、身近な昆虫ですとか動物の観察をする際の導入などにも使えます。学習指導においてさまざまな面で活用できるとても楽しい要素の含まれている絵本だと思います。

委員長 「ぼくとわたしのせいかつえほん」について、ほかに御意見はございますか。天利委員。

天利委員 私も同じような意見になってしまいますけれども、文部科学省の著作本は星本と言っていますが、その星本の1のところは、とてもこの本の構成に似ているなと思います。最初はやっぱり絵本を教師と一緒に見るというところから特別支援学校の子どもたちはスタートするわけですがけれども、その中に、文字はほとんど出てこなくて、その絵を見ながら、子どもの興味のある

ものを引き出しながらというような視点で教科書を使っていくわけですが、この本は割と薄い本に見えますが、人とか物とか建物が188点載ってまして、だから、著作本は国語としてつくられていますが、生活とか理科にも使える本としてとてもいいのではないかなと思いました。

委員長 ほかによろしいでしょうか。

では、他の図書について何か御意見があればお願いします。

吉田委員。

吉田委員 私は、講談社の「米村でんじろうのDVDでわかるおもしろ実験！！」のことについてお話をします。

テレビでおなじみのでんじろう先生の工夫された実験が30個紹介されています。どの実験も身近なものを使って実験しやすく、そして、インパクトがあっておもしろい、そういうところがよいと思います。DVDで実際の実験が映像で見られるので、子どもたちはまずそこで興味を持ち、次に、本を見ると、漫画で実験の仕方が詳しく説明されていて、そこからどうしてそうなるのかといった説明に入っていきます。解説やコラムなども入っているのですが、それも漢字には全て振り仮名がついているので、興味のある子は科学のことについて自分でどんどん読み進めていきやすいところもよいと思いました。科学の世界の入門として、身の回りの不思議に目を向けさせるとてもよい本だと思います。また、実験上の事故防止のアドバイスもところどころに入っているのです、もし先生たちが実験を授業でということになったときには、注意をしながら実験を行うことができるというのもよいことだな、使用しやすいことだなと思っていますので、ぜひ採択していただければと思います。

委員長 ほかにいかがでしょうか。

休憩をとらずに、このまま続けてもよろしいですか。

では、このまま続けさせていただきたいと思います。それでは、No. 5、音楽・器楽からNo. 9、英語までやっていきたいと思います。それでは、何か御意見はございますでしょうか。橘田委員。

橘田委員　　私は、「エリックカールの絵本　うたがみえるよきこえるよ」、それから、「日本傑作絵本シリーズ　みんなであそぶわらべうた」について述べさせていただきます。

まず、「エリックカールの絵本　うたがみえるよきこえるよ」ですけれども、モーツァルトのセレナーデのケッヘル203番のメヌエットがもとにイメージされているという点にすごく興味を引かれました。モーツァルトの若いころの作品ですけれども、非常になめらかな変化に富んだ曲がモチーフとなって、この絵本がつくられているというので、とても感心しました。黒のタキシードを着たバイオリニストが弾き始めると、そこから色彩が広がっていくというストーリーはとても深みのある内容であると感じます。長調や短調の変化、ソロと伴奏のかけ合い、それらが色彩と形を変化させて進められているおもしろさがとても魅力的です。最後に、バイオリニストのタキシードが色鮮やかに変化していく、そして、挨拶をするエンディングを迎えるというこの表現のおもしろさは、この本の魅力の1つだなと感じました。

それから、「日本傑作絵本シリーズ　みんなであそぶわらべうた」についてですけれども、この本は、日本の民謡音階で構成されているということで、歌に親しみ、楽しく歌うことができる工夫がされていると感じます。また、リズムも段階を追って構成されていて、体を動かしながらリズム感を養うことができるよう、十分配慮されていると感じました。視覚的にも、日本の山や野原のツクシンボ、そして、そこに遊ぶ子どもたちな

ど、音楽との結びつきにも配慮されていると感じました。

委員長 音楽・器楽の2冊について御意見をいただきましたが、ほかはいかがでしょうか。

では、他の図書について何かありますでしょうか。

委員長 英語まで通していこうと思いますけれども、よろしいですか。
では、若林委員、お願いします。

若林委員 図工・美術で、学研の「あそびのおうさまBOOK どんどんぬるほん」について述べたいと思います。

この本は、子どもの自由な感性を引き出せるように、シンプルで、気持ちを的確に引きつけるように工夫されていると思います。そして、各ページの色合いを抑えたシンプルなカラーで印刷をすることで、子どものこれから塗ろうとする色が際立つように考えられています。また、紙質がしっかりしていて、色鉛筆、それからクレヨンなどで直接力強く書いても、破れたり、しわになったりしにくいように配慮されています。各ページには、載せられた子どもへの呼びかけのメッセージがあるのですが、けれども、平易でわかりやすく、何をするのが迷わずにすぐに色を塗る行動に移せるというようなところも工夫されています。本の題のとおり、どんどん塗って自分の世界として1冊の本を仕上げる楽しさ、それから満足感が得られるようにつくられているところも工夫されていると思います。そして、最後のページですが、「クレヨンお絵かきボード」が挿入されていて、絵の描き消しができるようになっており、子どものどんどん書きたいという意欲を受けとめるように考えられています。

委員長 ただいま図工・美術の「あそびのおうさまBOOK どん

んぬるほん」についてでしたが、ほかに何か御意見はございますでしょうか。鈴木委員、お願いします。

鈴木委員 　同じく学研の「あそびのおうさまBOOK　どんどんぬるほん」なんですけれども、ちょっと重なるところもありますが、答えが1つではないといえますか、1つの丸い部分でもいろいろな色を塗ることでイメージが変わりますし、その中に絵を描くのか、その外側に絵を描くのかで仕上がるものが変わったりして、創造力や発想力を育てることができるのではないかなと思いました。また、その色塗りから絵を描く楽しさが学べたり、ふだんは、白い紙に絵を描く機会が多いと思うのですけれども、花火などの色塗りなどでは黒いところに花火用の丸い絵がありまして、そこに色を塗ることで、新しい塗り方というものの発見もあるのではないかなと思いました。

委員長 　ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、ほかの図書にないようであれば、次に入りたいと思います。

No. 7、家庭・職業家庭はいかがですか。泉委員、お願いいたします。

泉委員 　偕成社の「子どもの健康を考える絵本4　からだがすきなたべものなあに？」についてお話しします。

この本を開くと、女の子も、男の子もとてもおいしそうに食事をしている絵がたくさん描かれています。偏食傾向のある子どもでも、思わず、こんなにおいしそうなら次は食べてみようかなと前向きな気持ちになれそうです。内容を見てみますと、食べ物を赤、黄色、緑の3色に分けて栄養の基本を説明しています。身近な食べ物に含まれる栄養素について、体のためにどんな働きをしているのかがわかりますし、この本を栄養素の辞

書がわりにも使えます。例えば、調理実習の献立をつくるときに栄養のバランスを考えたり、あるいは、今日、自分が食べたものはどんな栄養になるのか調べたりすることができます。この本は、家庭生活に必要な食事や調理の基礎的な知識と技能を身につけることができる優れた絵本だと思いました。

委員長 鈴木委員、お願いします。

鈴木委員 同じく、「からだが好きなたべものなあに？」ですけれども、子どもの好きな食べ物が体にいいとは限らないということを伝えるのはなかなか難しいと思うのですが、そのことをこの本では、「くちが好きなたべもの」「からだが好きなたべもの」と表現していて、とてもわかりやすいと思いました。また、各ページに「ママがよむないしょのはなし」というポイントみたいなコラムがありまして、そちらを保護者と一緒に見ることで、保護者のほうも栄養などを意識して調理したり、30品目を目指して用意するなど、工夫しやすいのではないかなと思いました。

委員長 ほかいかがでしょうか。ただいまの本についてはよろしいでしょうか。

それでは、No. 8、体育・保健体育について、御意見があればお願いいたします。石曾根委員。

石曾根委員 私からは、偕成社の「エリックカールの絵本 できるかな？—あたまからつまさきまで—」の絵本についてお話をします。

動物たちの動きをまねながら、体の各部位を確認しつつ、みずから体を動かす楽しさや喜びを味わったり、各部位を動かすことによって新しい発見につながるように考えられています。保健体育の目標にあるように、適切な運動の経験や健康・安全

についての理解を通してとあるように、部位の確認や動かし方を絵本から学び、動きで表現できるように配慮されています。そして、見開きページごとに体を動かす部位が違っていて、視覚的にも見やすく、みずから見て表現につなげたいようになっていきます。色遣いやイラストも工夫されていて、各部位を大きく動かしてみたり、足を踏み鳴らしてみたり、また、手をたたいてみたり、自分でイメージを膨らませて深まりが持てるように、そして、元気が出るように考えられていると思います。

委員長 体育・保健体育について何かございますでしょうか。

それでは、ないようですので、No. 9、英語に入っていきたいと思います。何か御意見はございますでしょうか。井上委員、お願いします。

井上委員 私からは、三省堂の「親子でうたう英語うたの絵じてん」ですけれども、これはCDがついています。中学1年の英語での使用として新規に申請されているものですが、何年生でも利用できると思います。

載っている歌ですけれども、童謡、マザーグース、クリスマスソング、イギリス・アメリカ民謡、ポップスというふうに広い範囲から誰もが知っているような英語の歌がまず19曲載っています。英語の歌詞と日本語の訳が書いてあって、また、絵本のようなカラフルな絵とともに楽しく紹介をされています。それにつけ加えて、さらに6曲分のあそびうたがジェスチャーの絵の解説とともに載っています。わかりやすく楽しく書いてあるので、備えつけのCDを流しながら何度も聞いたり、一緒に体を動かしながら練習したりできると思いました。

CDをまねて歌ったり、聞いたりすることで、自然に英語らしい発音や音の流れを身につけることができると思います。ただ喋るのではなく、歌を通して英語を学ぶことで音が身につく

やすいと思います。全25曲の選曲も、有名な曲ばかりですし、しかも、楽しく温かい雰囲気曲が選ばれているので、安心して子どもたちに使ってもらえる優れた本だと思いました。

委員長 「親子でうたう英語うたの絵じてん」についての御意見でしたが、この図書についてはよろしいですか。

ほかにありますでしょうか。吉田委員、お願いします。

吉田委員 ポプラ社の「音の出る知育絵本9 こえでおぼえるABCえいごのほん」についてお話ししたいと思います。

英語の入門期としてとても楽しく活用できる本だなと思いました。本のほかに、タッチすると音の出るボードがついていて、アルファベット、それから1から10までの数、身近なところにあるもの、色、形、それから簡単な挨拶まで入っていて、その絵のところや文字のところを押すと、それが発音されるので、きっと子どもたちは楽しんで、繰り返し遊びながら学び、そして、英語を口にする、そういう使い方ができるように思いました。「もんだいボタン」というのもあって、正解したり、不正解したりすると、それぞれに合った音が出るということで、それも楽しい工夫だなと思いました。子どもたちによっては、見ることが得意な子や、聞くことが得意な子とか、いろいろな特性のある子がいると思いますが、これは、目と耳で英語が学べる入門期の教科書として大変よいと思いますので、採択していただければと思います。

委員長 ほかに英語についてはいかがでしょうか。天利委員。

天利委員 英語ですけれども、今までも英語の教科書として使っているものはほとんどがCDつきで、耳から入るということをととても重視しているように選んでいると思うのですけれども、CDと

いうよりも、このポプラ社の音の出る仕組みについては、押し
てそれを聞くというようなところもあって、割と端的に子ども
が親しめる本として活用できるかなと思っています。値段的に
は、今回一番高い2000円という金額ですけれども、その隣
に特別支援の星印本があって、算数が2300円と書いてある
ぐらいなので、許容範囲かなと思いますので、選んであげられ
ればと思っています。

委員長 ほかにいかがでしょうか。

ここまで、国語・書写から英語まで全ての教科で審議してい
ただきましたが、何か追加で御意見はありますか。

事務局、お願いします。

事務局 申しわけございませんが、資料の訂正をお願いいたします。
調査書まとめ1ページ、No. 1、国語・書写でございますが、3
つ目の発行者ジュラの「プータンどこいくの？」とありますが、
正しくは「プータンどこいくの？」でございます。また、この
図書は、7ページにありますように、生活・地図・社会の教科
書として昨年度採択されたものでございますので、新規図書で
はなく、複数種目において教科書としてふさわしいとされる図
書ということで、□印に訂正をお願いいたします。あわせまし
て、16ページの資料1の「プータンどこ行くの？」の印も、
新ではなく□の印となります。

以上、訂正をお願いいたします。申しわけございませんでし
た。

委員長 事務局からの訂正のほうはよろしいでしょうか。「プータン
どこ行くの？」が正しいそうです。それと、新規本ではなくて、
複数種目ということで、よろしくをお願いいたします。

それでは、これで、新と書かれた新規図書、そして、□の印

がついている複数種目で希望がある図書全てについて一通り御意見をいただいたところですが、全体を通じて何か言い忘れたこと、言い足りなかったことはございませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、ほかに意見がないようですので、議題1「平成28年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」の審議はここまでといたします。

引き続き、議題2「平成28年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」の審議を行いたいと思います。平成28年度使用中学校用教科用図書並びに平成28年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の答申につきまして、何か御意見はございますでしょうか。中村委員。

中村委員　　今、答申の話がありましたが、教育委員長からの諮問に、各調査の観点や調査研究の観点に基づき審議し、その内容を答申するとあるのですけれども、第2回、第3回と教育委員の皆様にも傍聴していただいておりますし、審議をこうして重ねてきましたけれども、審議内容が多岐にわたっておりますので、答申の内容をまとめるというよりは、審議委員会の会議録を答申に当てるといった形でいかがでしょうか。

委員長　　答申につきまして、第2回及び第3回の会議録をもって答申とするという御意見ですが、よろしいでしょうか。

各委員　　結構です。

委員長　　それでは、議題2「平成28年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」は、第2回、第3回の平成28年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会の会議録をもつ

て答申とすることにいたします。

会議録は、私と署名委員の本橋委員で確認した後、審議委員の皆様にもごらんいただき、その後、答申をするようにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員 結構です。

委員長 それでは、議題2についての審議を終了いたします。

これで予定された議題に関する審議は終わりましたが、全体を通して皆様から何か御意見はございますでしょうか。

各委員 なし。

委員長 それでは、事務局から何かございますか。

事務局 それでは、今後の予定について説明いたします。

事務局といたしましては、今後、本審議委員会の会議録を作成いたしまして、まず署名委員に確認をしていただきます。その後、審議委員の皆様にも御確認いただき、審議委員長から教育委員長への答申を行うこととなりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。

それでは、これを持ちまして全ての審議を終了いたしましたので、第3回平成28年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

この会議の結果の記載に相違ないことを、確認する。

署名委員